第32期　定時株主総会

令和8年8月6日

株式会社五ヶ瀬ハイランド

第32期事業報告

令和7年6月1日から令和8年5月31日まで

32期五ヶ瀬ハイランド事業報告

32期スキー事業部においては、3年ぶりにオープンした前期が目標の来場者数に達しなかったことから、再度25,000人の目標を立てて準備を行った。従業員の確保に関しては、前期に苦慮したことから、人材派遣業を活用して人員配置を行った。それにより、課題にしていたスキー事業部社員の休日出勤や時間外労働は大きく削減できた。しかし、人材派遣費という費用面の増加や、従業員の寮の問題など新たな課題も見えてきた。オープンしてから悪天候は無かったものの、造雪機の不具合や、人工降雪稼働の為に必要な水の不足から、思うようにゲレンデの積雪量を確保できずに、パラダイスコース1000mの開放も1月下旬になるなど、来場者数が伸び悩んだ。後半は、少ない積雪量のなか、気温上昇や降雨によりゲレンデの状況悪化となり、予定期間半ば2月27日に営業日数70日で営業終了となった。

70日間の営業期間中、来場者数は15,345人と厳しい結果となった。学割を利用される新規のお客様や、台湾からの新規のツアーの団体等が増加するなど、明るい話題もあったものの、シーズン券の購入者も大きく減少し、来場者の回復の為に大きな課題が残った。

32期宿泊事業部では、ここ数期注力している、本館の一般宿泊者の食事付予約数と別館の稼働率の増加の2点について、売り上げ向上の為の最重要課題と位置づけて意識の統一を行った。宿泊者数は前期比368人増、売り上げ約220万円増となった。レストラン売り上げも、取り組んできた宿泊者の食事提供数の増加と、法事や宴会の予約強化の為の宣伝効果により、週末にはレストラン予約も多く入り、前期比約270万円増となった。温泉とキャンプも前期を5%程度伸ばし、全体の売上は前期比105%で約500万円の増加となった。

費用面では、社員の減少や夜間従事者の地元からの雇用が困難な点を派遣従業員で補填し、人材派遣費が増加したものの、人件費全体では約120万円削減した。その他も、宿泊数増加に伴い発生する費用の増加や、施設老朽化による修繕費などが増加はしたが、販管費全体では前期比約190万円程度削減はできた。

部署ごとでみると、レストラン部門の人件費が割合の多くを占めている事から、営業内容の見直しを行い、業務改善に引き続き取り組む必要がある。

会社全体としては、売上高185,728,040円、営業経費246,242,338円、補助金等の営業外の収益を併せて当期純総益を60,320,106円のプラスで終える事となった。これは、ここ数期の資金繰りの為に町からの財政投資が多くなっての結果でもある。各事業部の単独での黒字化を目標に、経営状況の把握を細かく行う事と、計画や実績を各部署の社員全員が把握をして、経営改善の意識を持つ事を周知徹底していきたい。

貸借対照表

株式会社　五ヶ瀬ハイランド

令和8年8月6日　　単位:円

資産の部			負債の部		
【流動資産】		15,275,489	【流動負債】		44,939,578
現金及び預金		7,152,527	買掛金		5,021,376
売掛金		5,463,971	短期借入金		0
繰越商品		561,119	未払金		12,227,964
貯蔵品		1,161,577	前受金		25,095,650
原材料		859,101	預り金		2,026,588
前払費用		0	未払法人税		182,500
未収金		77,194	未払消費税等		385,500
立替金			【固定負債】		30,794,000
その他流動資産			長期借入金		30,794,000
			負債合計		75,733,578
			純資産の部（資本）		
			【株主資本】		△ 59,093,817
			【資本金】		
			資本金		50,000,000
			資本準備金		
【固定資産】		1,364,272	利益準備金		1,200,000
（有形固定資産）			繰越利益剰余金		△ 110,293,817
建物		473,695	その他利益剰余金		△ 110,293,817
什器備品		205,556	利益剰余金合計		△ 109,093,817
構築物		89,752			
機械装置		1	純資産合計（資本）		△ 59,093,817
建物附属備品		394,288			
（投資その他資産）					
出資金		100,000			
保証金		20,000			
預託金		80,980			
資産合計		16,639,761	負債・純資産（資本）合計		16,639,761

損　益　計　算　書

株式会社　五ヶ瀬ハイランド

自 令和 7年 6月 1日
至 令和 8年 5月31日

（単位：円）

【売上高】		
スキー場リフト売上	32,286,963	
スキー場レンタル売上	32,091,658	
宿泊売上	41,899,559	
温泉売上	9,360,764	
レストラン売上	41,945,278	
キャンプ場売上	281,944	
スキー場ショップ売上	6,200,721	
スキー場レストラン売上	13,188,987	
スキー場スクール売上	3,993,445	
売店売上	4,478,721	185,728,040
【売上原価】		
期首商品棚卸高	1,469,189	
仕入	6,783,029	
食材仕入高	24,644,965	
期末商品棚卸高	1,420,220	31,476,963
売上総利益		154,251,077
【販売費一般管理費】		
給料手当	32,245,912	
人材派遣費	11,506,851	
雑給	63,264,542	
賞与	3,445,450	
法定福利費	8,187,619	
福利厚生費	878,690	
燃料費	25,625,988	
通信運搬費	2,662,681	
保険料	1,222,000	
接待交際費	280,901	
支払手数料	9,926,746	
消耗品費 2	886,891	
広告宣伝費	8,904,968	
水道光熱費	26,048,268	
図書研修費	153,502	
委託料	6,785,543	
使用料及賃借	26,355,653	
租税公課	1,000,545	
寄付金	50,000	
旅費	135,258	

税理士報酬	750,000	
修繕費	1,929,532	
家賃	540,000	
減価償却費	219,580	
消耗品費	8,168,147	
販売促進費	779,281	
雑費	4,287,790	246,242,338
営業損失		91,991,261
【営業外収益】		
受取利息	22,329	
雑収入	152,899,846	152,922,175
【営業外費用】		
雑損失	8,511	
支払利息	419,797	428,308
経常利益		60,502,606
税引前当期純利益		60,502,606
法人税、住民税及び事業税	182,500	182,500
当期純利益		60,320,106

第23期　定　時　株　主　総　会

令和8年6月10日

五ヶ瀬ワイナリー株式会社

第23期　令和7年4月1日から　令和8年3月31日まで　事業報告書

事業概況

第23期における工場売上高（小売店・飲食店・卸業者・ワイン館出荷他）は、82,254千円で第22期売上高（85,564千円）に対して3,310千円減（96.1%）となりました。国内の急激な物価上昇において、嗜好品であるアルコール全体の消費量が伸び悩んだことに加え、若年層や健康志向層での飲酒量が減少傾向にあることもマイナス要因に働きました。特に県内のスーパーなど小売店への出荷数の減少が顕著でありました。熊本、福岡方面への出荷数は着実な伸びを見せてはおりますが、全体出荷数の減少分を取り戻すまでには至りませんでした。課税移出数量は、当期が31,766ℓで、前期の35,517ℓに対しまして3,751ℓ減少しております。コロナ禍前の売上高は100,000千円前後で推移しておりましたが、その後の生活環境の大きな変化や国内ワイナリー数の増加による日本ワイン市場の競争激化に伴い、当期を含め第19期（2021年）以降の出荷量は15～20%減の状況が続いております。

直売所である売店「ワイン館」の売上高は54,104千円で、物価高という逆風の影響を受けながらも、前期（54,517千円）に対して413千円減（99.2%）と売上げをほぼ維持する形となりました。レジ客数は12,696と前期比（12,237）3.8%増と来館客数は増加しましたが、ワイン以外の商品の値上げなどの影響を受けて、客単価が約5%減少しました。通信販売の売上げにおいては、前期比7%増の3,000千円、イベント出店売上は17%増の1,900千円の計上となりましたが、実店舗での売上の減少が大きく、当期予算額の55,500千円には約1,400千円及びませんでした。

レストラン「雲の上のぶどう」の売上高は、17,571千円で前期（15,666千円）に対し、1,905千円増（112.2%）となりました。1月を除き、年間を通して月ごとに前期の売上を上回るなど、安定した集客となりました。特に春の桜シーズンからゴールデンウィーク期間、夏休みからお盆期間、秋の紅葉時期の売上げが20%強と好調でありました。当該時期に固定化したツアー客の入込みがあることと、リピーター客の取得や町民利用が促進されたことがプラス要因となりました。コロナ禍前の売上高である19,000千円までの回復に一歩近づきました。

それでは、当期の事業概況についてご報告申し上げます。

売上高154,036千円、当期純損益金額6,485千円、当期未処理分損益金額は△108,691千円という結果となりました。

貸　借　対　照　表

五ヶ瀬ワイナリー株式会社　　令和 8年 3月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
	円		円
Ⅰ【流動資産】	【 133,762,189】	Ⅰ【流動負債】	【 45,022,464】
現金及び預金	7,560,095	短期借入金	31,960,000
売掛金（売店）	1,640,421	未払金	5,078,135
売掛金（工場）	4,353,965	未払費用	3,875,229
売掛金（レストラン）	602,210	未払法人税等	182,500
棚卸資産	109,296,278	未払消費税等	3,852,100
未収入金	464,000	預り金	74,500
仮払金	139,247		
貯蔵品	9,705,973	Ⅱ【固定負債】	【 112,301,000】
		長期借入金	112,301,000
Ⅱ【固定資産】	【 913,516】		
1〔有形固定資産〕	〔 777,296〕	負債合計	157,323,464
建物附属設備	497,118	純資産の部	
車両運搬具	1		円
工具器具備品	240,838	Ⅰ【株主資本】	【 △22,647,759】
器具備品	39,333	1 資本金	50,000,000
機械装置	6	2〔資本剰余金〕	〔 36,043,573〕
2〔無形固定資産〕	〔 100,000〕	（その他資本剰余金）	（ 36,043,573）
ソフトウェア	100,000	3〔利益剰余金〕	〔 △108,691,332〕
3〔投資その他の資産〕	〔 36,220〕	（その他利益剰余金）	（ △108,691,332）
出資金	30,000	繰越利益剰余金	△108,691,332
差入保証金	6,220		
		純資産合計	△22,647,759
資産合計	134,675,705	負債・純資産合計	134,675,705

損　益　計　算　書

五ヶ瀬ワイナリー株式会社

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月31日

科目	金額	
		円
Ⅰ【売上高】		
売上高（売店）	54,104,309	
売上高（工場）	82,253,619	
レストラン売上高	17,571,147	
売上高（風のホール）	10,908	
売上高（共通）	96,000	154,035,983
Ⅱ【売上原価】		
期首商品棚卸高	3,569,343	
期首製品棚卸高	121,851,480	
商品仕入高	43,484,917	
材料仕入高	5,876,578	
酒税	2,254,200	
当期製品製造原価	50,560,341	
期末製品棚卸高	100,819,242	
期末商品棚卸高	8,477,036	118,300,581
売上総利益		35,735,402
Ⅲ【販売費一般管理費】		72,443,594
営業損失		36,708,192
Ⅳ【営業外収益】		
受取利息	37,479	
雑収入	39,612,960	39,650,439
Ⅴ【営業外費用】		
雑損失	24,120	
支払利息	3,741,131	3,765,251
経常損失		823,004
Ⅵ【特別利益】		
補助金収入	7,503,247	7,503,247
Ⅶ【特別損失】		
固定資産除却損	12,901	12,901
税引前当期純利益		6,667,342
法人税、住民税及び事業税	182,500	182,500
当期純利益		6,484,842